

子育てを
応援します

青森市子育て

vol. 21

2020.3.9 発行

サポセン

《サポートセンター通信》
通信

青森市子育てサポートセンターでは、家庭教育に関する学習機会の提供（青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート、子育て講座《きらきら塾》や発達に心配のあるお子さんに関する講座《うとう塾》の企画運営）、情報収集、発信、また子育て相談の対応等を行っています。



現代社会を生きる子どもたちの“難しさ”とは？

第6回
10/18

きらきら塾

子どもたちの今
～友人関係のあれこれ～



講師：小林 央美さん
(青森市子どもの
権利擁護委員)

はじめに、青森市子どもの権利擁護委員でもある講師の小林央美さんより「青森市子どもの権利条例」について説明がありました。青森市には、子どもたちがみんなに愛されながら元気に育ってほしいという願いを込めた「青森市子どもの権利条例」があります。子どもにとって大切な四つの権利として①安心して生きる権利②豊かで健康やかに生きる権利③自分らしく生きる権利④意見を表明し参加する権利を定めています。条例では「子どもの最善の利益を優先する」「子ども一人一人が権利の主人公」「成長にあっただざまな支援が受けられる」「ほかの人の権利も大切」「子どもの権利を大切にすることは大人の役割」という五つの考え方に基づいて、子どもの権利を大切にすることを約束しています。

次に、演題のテーマの一つでもある「いじめ」についてお話をうかがいました。いじめという行動にでしてしまう子どもたちは、あらゆる面でストレスがあり、人の痛みを想像できないなどの背景があります。いじめの傍観者は、何かをして状況をさらに悪くすることや報復を恐れており、それらのことから罪意識や不安を感じ、自己肯定感や自信を喪失し、さらには共感性を失い、他者の痛みを感じにくくなり、加害者の影響を受けやすくなるなど心に傷を負います。被害者は、学校生活への影響（不登校、自己肯定感の低下によって、学力や社



会的能力が下がる)、それに伴う健康上の問題など心理的苦痛を受けます。

また、現代社会において、SNSの世界にあおられる子どもの世界とその苦しさについて、つながり過剰症候群（便利さの影で、同期性が増す、人間関係の常時接続化）や、自由な関係の二面性（付き合う相手を勝手に選べる自由と選ばれない自分になる不安）、肥大化する承認願望（いいね中毒）など、日本の子どもたちは他国に比べ、「自分自身に満足している・長所がある・学校生活に満足している」などの意識が低いことを知り、今を生きる子どもたちの難しさを感じました。

それゆえ、ますます、子どもたちと共に大人や親は共に育ちあいながら、子どもと関わりながら成長していくことが求められているということでした。大人同士もつながりながら子育てしていけたら素敵です。最後に、「親は子どもを丸ごと見守る、受け入れることが大事です。そして、親が自己の考え方や物事の見方を、日々、みがくことが大切です。」という言葉が印象に残りました。

***** 参加者の感想 *****

- * 子どもの生きている環境は厳しいと感じました。
- * 子ども、親、家族全員が権利意識を持つことが大事だと学びました。
- * 講座をきいて、他のお母さんの意見をきくことで、自分自身の考えについても改めて考え直す機会となって良かったです。
- * 自分の考えをみがき、日々あたたかい思いで子どもに関わってきたいと思いました。とても勉強になりました。





鳴海さんは、子育て講座の講師など、私たちにもわかりやすく優しくお話をしてください。信頼できる方です。

Q 中1男子の母です。夏休みが終わる寸前、集中して宿題をしたのが功を奏したのか、休み明けのテストの点が良かったのです。それをきっかけに、「自分は勉強しなくても大丈夫」と勉強しなくなりました。心配です。。。

A つい最近、「見える学力」と「見えない学力」という言葉に出会いました。木村素子さん（元大阪市立大空小学校校長）が書かれた、「『ふつの子』なんていない」（家の光協会）という本です。それもあって、この質問を受けたとき、お母さんが息子さんにつけて欲しいのは、どっちの学力なんだろうと思いました。大空小学校では、テストの点数のように数字に表せるような力を「見える学力」と呼んでいて、困っている子や問題を抱えた子どもを助けてあげようとするような、子ども同士がお互いに関わり合う中で身につける力を、「見えない学力」と呼んでいるそうです。そして、この「見えない学力」は、誰もが幸せに生きていくことが出来るような社会をつくる力になるからと、大切にしているそうです。質問によれば息子さんは、「1週間くらいで夏休みの宿題を集中的に片付けて、その勢いで、テストで良い点数をとれた」そうです。きっと集中力や短期記憶力が優れていて、さらに、要領もいんだらうなあと思いました。息子さんのこのような力は、将来生きていく上でとても大きな助けになる、「見えない学力」なんだと思います。私は、このような「見えない学力」は、子どもたちの日常的な「遊び」の中で身につくものだと思います。以前、厚生労働省が児童福祉週間の標語として、「遊びは子どものはんだ」という標語を発表したことがあります。これは、まさに我が意を得たりという思いでした。以来、私の大好きな言葉です。ということで、私だったら、「思う存分、遊んでごらんよ！！」と声を掛けてあげたいですね。でも、息子さんが思うほど世の中は甘くありません。いざれ手痛いっべ返しをうけるでしょう。お母さんとしては、そのことは覚悟しておきましょう。その痛みは、息子さんにとって大事な経験になるはずで。子どもたちは「失敗体験」を繰り返すことで成長していくものだとされています。失敗することは、子どもの大切な権利です。子どもたちの「失敗する権利」を奪わない親でありたいものですね。

1人で悩まないで！出会いが次のヒントに繋がる

第5回
9/6

うとう塾 悩んでいるのはひとりじゃないよ！
～わたしの体験談～

うとう塾ってなあに？
発達に心配（発達の偏りや遅れ）のある4歳～小学校中学校までの保護者や関心のある方を対象に、専門知識を持つ講師をお迎えして、年5回開く子育て講座です。



講師：蝦名 佐恵子さん
(青森県自閉症協会青森地区
ペアレントメンター)

うとう塾最後の講座は、お二人の母親からの経験談を伺いました。蝦名さんの息子さんは、特別支援学校の高校3年生（知的障がい）です。小学校は支援学級、中学校は特別支援学校を卒業しました。高校卒業後は、グループホームを利用し自立した生活を考えており、公共機関（バス）の利用方法や家でのお手伝い（テーブル拭き）等を教えています。周りの方々から、配慮を頂けると「ヘルプマーク」をつけて外出しています。蝦名さん自身も、支援機関やママ友に話を聞いてもらう事でたくさん助けられた経験から「どうか一人で悩まないでほしい」というメッセージを頂きました。

寺山さんの息子さんは、特別支援学校の小学2年生（知的障がい）です。自閉症スペクトラムの診断（3歳）がつくまでは悩みや葛藤があり、その後は行政や支援機関へ相談し、福



寺山 裕子さん
(青森市子育てサポートセンタースタッフ)

祉サービスを利用する事でママ友の繋がりができ助けられたそうです。親が出来る事は「見守る・工夫する・褒める」です。皆さんに伝えたい事は「ねばならぬ！を止めること。私は『そうきたか』の魔法の言葉をつぶやきます。あなた（ママ達）は頑張っていますよ。失敗しても大丈夫！なんでもチャレンジしてみましょ」と、話してくださいました。そして最後に、息子さんが大好きで描いた絵の紹介がありました。

悩みながらも頑張ってきたお二人だからこそ、その言葉は心強く伝わり「どうか一人で悩まないで！誰かに相談することで・誰か



参加者の感想
*何か一つでも集中して続けられることを見つけてあげたいです。
*小さい頃からの積み重ねが大切だと、経験者のお話を聞いて、心に強く残りました。

の話を聞くことで、次のヒントに繋がる」を実感するお話でした。
*情報：お話を聞いてくれる「ペアレントメンター」（不定期活動）もいます。

青森市子育てサポートセンター

【TEL・FAX】017-774-6537（開設時以外は、留守番電話をお願いします。）
 【住所】〒030-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア（勤労青少年ホーム）2F
 【開設日時】毎週火曜日 10:00～13:00
 【E-mail】aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp 【ブログ】http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara

青森市子育てサポートセンターの運営は、私たち《青森市家庭教育サポーター連絡会》が、青森市教育委員会から家庭教育支援事業を受託して行っています。「青森市内で子育てをしている保護者のみなさんのお役に立ちたい！」という熱い思いで活動に取り組んでいます。